

時事の話題

政局について

先のG7会議において、世界経済と金融市場を安定させ、成長と雇用を支えるために、財政出動を中心とした打つべきあらゆる政策を、スピード感をもって実行することで各国の見解が一致している。

また、米国では2年間で7,890億ドルの景気対策法案を可決し、金融安定計画を打ち出すなど、オバマ新政権が経済政策を実質的に実行する段階に入っている。

しかしながら、わが国では経済の要である財務大臣が辞任したり、総理の発言にブレが見られるなど、今日の政治には危機感とスピード感が欠落している。

雇用や資金繰りなど、現実的な不安に真剣に向き合い、今年度の2次補正予算関連法案と来年度予算をすぐにでも成立させ、そのうえで追加の大型経済対策にも取り組んでいただきたい。そうでなければ、主要国で最悪の不況が長期化する恐れがあると懸念している。

与野党は、1日たりとも政治運営に空白が生じることがないように、政局に終始せず、経済危機に瀕したこの難局を乗り切るようお願いしたい。今や地元産業界はもとより、国民の間では総選挙で混迷状態をリセットし、閉塞感を打破して欲しい気持ちが日増しに強まっている。自公政権、民主政権を問わず、世界で最も早い危機克服のための施策の迅速な実行を待ち望んでいる。

追加経済対策について

先週発表された昨年10-12月期の国内GDPの2桁台の大きな落ち込みは、我々の実感としても既に織り込み済みである。すでに様々な解説がされている通り、世界経済の急速な落ち込みを背景に輸出に急ブレーキが掛かったことが主な要因であり、外需依存の日本経済のもろさを露呈してしまった。

また、今年の1-3月期の経済見通しも大変厳しいマイナス数値になることが予測されているので、これ以上の景気悪化を食い止めるためにも、今年度の2次補正予算関連法案と来年度予算の早期成立を図ることはもちろんであるが、来年度予算に対する追加的な経済対策の打ち出しが必要ではないか。

基本的には従来型の公共投資ではなくて、いわば需要喚起策としての100%国直轄事業の投資を是非とも期待したい。

京都商工会議所の動き

第2回京都・知恵ビジネス・ワークショップの開催について

ニュー京商ビジョンの知恵産業の「普及・啓発」のステージの集大成として、本日、京都市勤業館（みやこめっせ）において第2回京都・知恵ビジネス・ワークショップを開催している。

昨年9月に開催した第1回では25社からの事例発表があったが、今回は、60社を超える事業者が、「知恵の使いどころ」や、「自社の強み」をアピールすることになっているこのワークショップにおいて、各社が参加者との交流と融合でさらに新しい発想を広げていただけるきっかけになればと思っている。

来年度の事業計画について

来年度の事業計画では、現在の大変厳しい経済状況を受けて、緊急課題として、次の3点を重点的取り組みに位置づけた。

まず、一つ目は「経営支援体制のパワーアップ」である。中小企業へのセーフティネット対応、経営力向上支援など、会員が直面する経営課題のサポートをより一層充実させていく。二つ目は、「人材育成と雇用創造」。先般発表した「京都 知恵と力の博覧会」など、直面する雇用問題にオール京都体制で取り組むとともに、人材開発センターを本所内に設置し、研修事業などによる人材育成に取り組むこととした。三つ目は、「『見える化』の推進」である。全会員事業所訪問や広報の充実などにより、会議所事業や会員サービスの「見える化」を図り、会員に対する魅力の発信など、顧客視点に立った会議所運営に努めて参りたい。

来年度の知恵産業創造に向けての事業方針について

来年度は、知恵ビジネスの「育成」に本格的に着手していくこととなる。まずは、業種を問わず様々な分野で、これから知恵ビジネスに取り組もうとする事業者の「知恵のチャレンジャーネットワーク」を創設していくことから始めていきたい。

こうしたネットワークの中から、知恵が活かされているが、まだ事業化されていない具体的なビジネスプランをコンテスト方式などで発掘し、販路開拓や事業化調査、研究開発などに対する支援を行ない、知恵ビジネスの創造につなげる。

また、ビジネスプランへの支援にあたっては、本所の経営支援員や専門人材の活用などにより、事業者と共に手を取り合い、課題を解決していく「ハンズオン型」の支援で、きめ細やかに対応していく。ぜひ、行政や関係機関の協力を得て、オール京都の取り組みへとつなげていきたい。

一方、これまでに取り組んできた「普及・啓発」の事業も引き続き実施していく。知恵産業のイメージやメリットを目に見える形で伝え、知恵ビジネスに取り組もうとする意欲ある事業者がどんどん手を挙げていただけるように誘導していきたいと考えている。

「知恵産業の創造」も含めて、全体的な事業計画の具体的な内容については、来月の記者会見で発表させていただく。

記者からの質問事項

門川市長就任1年が経過しての評価と2年目の期待について。

基本的には現場を知ることによって徹底された1年であったかと受け止めている。2

年目以降については、現場を掌握した上で、施策の具体的な実行に移されているのではないかと期待している。本来の具体的な活動については、今後3年間にマニフェストの実現に向け、努力して頂き、経済界としても強力なバックアップをさせてもらいたい。

J R西日本の梅小路公園における鉄道博物館計画について。

地元京都として歓迎の意を表したい。小中高生に対する教育施設としてや、観光需要の創出のための施設としても位置づけられており、是非とも、1日でも早い実現を期待したい。

本所の関連では特に観光需要の創出に関して、その企画・運営の面で、行政と関係機関と協力体制をとって、強力な支援をしていきたい。

知恵産業の「普及・啓発」のステージの集大成として、今回の知恵ビジネス・ワークショップの感想について。

「知恵産業」の1年目のステージとしては「普及・啓発」、2年目が「育成」、3年目が「展開」として、3年間で100%ビジョンを実現させるという捉え方をしている。

これまでのところ、3分の1の1年が過ぎたところであるが、満足する実績を示せたのではないかと。今日のワークショップが「普及・啓発」の集大成であり、是非、この実績を踏まえて、来年度の「育成」のステージに取り組んでいきたい。

また、来年度は具体的な成功の出る目標を立てて、挑戦していく1年としていきたい。

知恵のチャレンジャーネットワークの具体的なイメージについて。

(事務局より説明)知恵のチャレンジャーネットワークは、知恵は持っているが、まだ事業化に至っていない、あるいは市場開拓、販路開拓にもう少し力が足りないといったところに会議所や府市の支援機関の協力を得ながら支援していくイメージである。

総選挙の時期はいつ頃が適切であるか。

政治はスピード感をもって政策を決定し、実行してもらおうという意味においては、来年度予算において、補正予算が成立した時期が一つのタイミングではないかと思っている。9月まで引きずることは好ましくないと思っている。

以 上